

卷頭言

本研究は、本協会の職員が日常の業務を遂行する中で問題点を見つけ、分析し、その対応策を検討するという実践的な研究をまとめるところからスタートして4年目を迎えました。

研究報告書は平成24年度に発刊して以来、今年度の12件の研究報告を入れて、共同研究者を含め延べ118名の職員から70件の研究報告が寄せられました。

時間的にも厳しい状況の中で、日々の業務を振り返り熱心に研究し、まとめるという作業に取り組んだ職員の苦闘及び努力に敬意を表するとともに、今年度から、評価の高い優秀な研究の成果を讃えることとし「最優秀賞」と「優秀賞」を設けることにしました。

研究事業は、身近な自らの問題を探求する「問題解決型研究」や、自ら又は管理者から課せられた「課題解決型研究」に取り組み、内容別にみると、プラネタリウム関係が4件、展示関係が2件、イベント関係が2件、広報、施設整備、人材育成、館の運営関係がそれぞれ1件となっています。

今回の研究の中には、具体的な事象の問題点を分析し、取り組む課題を把握し、課題解決のための仮説を立て、理論、実践研究を行い、結果を考察し、成果と課題を明らかにしていくという本来の研究の望ましい姿や、コスト意識を考慮するなど素晴らしい研究も見受けられました。

このように「課題はないか」、「何かが必要ではないか」と前向きに研究したことが、サービスの質や内容を充実させることに繋がり、来館される方々に満足を与えるものになるだろうと期待しています。

中には、出来具合が今一歩と思える研究に、もう少し時間を掛けての結論が必要ではないだろうかと感じたものもありました。

そこで今後は、これまで単年度の研究のみを事業の対象としてきましたが、継続研究も本事業として取り扱うことを検討したいと考えています。

今後も引き続き、未来に向けて私たちは不斷の努力が必要だと考えます。

そして、その先にあるものが、館を訪れるお客様や職員の皆様の「心の豊かさ（しあわせな気分）」であってほしいと思っています。

平成28年3月吉日

公益財団法人宮崎文化振興協会
理 事 長 井 上 雄 二

目 次

1. 研究論文

経営部門

《事務局経営戦略課》	
宮崎文化振興協会の人材育成を効果的に推進する 研修システムの在り方について	· · · · 1

自然科学部門

《宮崎科学技術館》	
学習指導要領に基づいた宮崎科学技術館の効果的な利用について · · · · 7	
～プラネタリウム親子学習教室を通して～	
プラネタリウム学習投映の学習効果の調査と投映内容の充実に向けて · · · · 13	
参加型プラネタリウムと天文普及教育活動	· · · · 21
《大淀川学習館》	
池に発生するアオミドロの除去対策としての ホティアオイの有効性と池植生の新たな構築について	· · · · 26
安定的なチョウの飼育展示方法	· · · · 32

施設管理部門

《宮崎科学技術館》	
「ランドサット九州」の教材への活用	· · · · 38
プラネタリウムにおける SL スライドフィルム再利用の方法と実践	· · · · 42

《宮崎市民プラザ》	
2020年を見据えた館運営	· · · · 4 8

催事等実施報告部門

《宮崎科学技術館》	
南極関連イベントに関する考察	· · · · 5 4
《大淀川学習館》	
みて！ふれて！楽しんで！「ほんもの体験」を味わわせる 効果的なイベントの工夫	· · · · 6 1
ソーシャルネットワーク上におけるファン獲得戦略について	· · · · 6 7

2. 先行研究一覧 · · · · 7 3